

歴史・地理

keyword

- 地理学
- 歴史的空間認識
- 歴史地理
- 地理教育
- 京都
- 旅の創造



安藤 哲郎
Tetsuro Ando

教育学部
准教授

【プロフィール】

- 略歴
- ・2004年 早稲田大学第一文学部卒業
- ・2011年 京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程修了博士(人間・環境学)
- ・2013年2月 京都大学助教(大学院人間・環境学研究科)
- ・2014年4月 滋賀大学教育学部講師

【主な社会的活動】

- 学会活動
 - ・人文地理学会、歴史地理学会、日本地理学会、日本地理教育学会など
- 社会的活動
 - ・文理融合出前授業を行う「チーム GANTT」の一員として、学際融合的な授業を実施
 - ・「京都朝げいこ」(朝活)講師

【主な論文】

- ・「平安貴族における「京」の認識—日記の検討を通して」歴史地理学 53-2、2011
- ・「説話文学における舞台と内容の関連性—平安時代の都とその周辺を対象に」人文地理 60-1、2008
- ・「京都の歴史遺産と旅—授業実践を踏まえた歴史地理学からの提案—」歴史地理学 55-1、2013

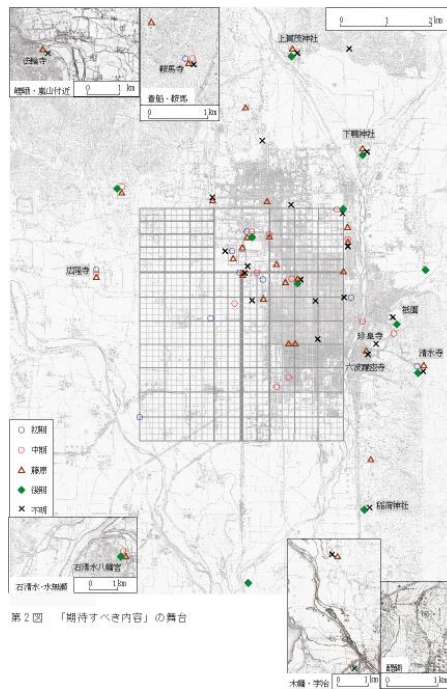
【代表的な研究テーマ】

- 物語の舞台に関する地理学的研究
- 地理学を活かした旅の創造

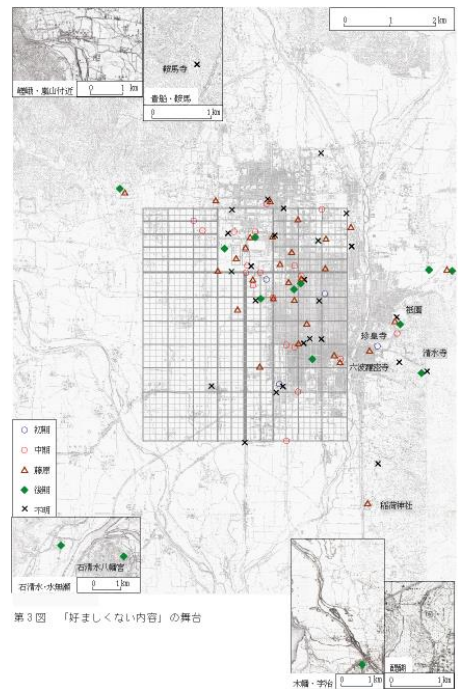
課題解決に役立つシーズの説明

「物語の舞台」は、現在のところ古典の物語の中で取り上げられた場所を指す。具体的には、『今昔物語集』『宇治拾遺物語』といった説話の舞台の意味について考えてきた。京都(平安京)の人々が見聞したことのある場所や各地の伝え聞いた場所についてどのように考えていたかを探るもので、舞台を地図化する作業を通じて分析している。結果、例えば貴族の崇敬を集める平安京外の寺社においては説話で語られる内容が登場人物にとって期待すべきものとなっていることが多いなど、地図化によって傾向も分析することができる(上段図)。この研究の成果で、古典の描かれた時代の人々の場所に対する考え方の一端を理解することができ、歴史的な研究に寄与できる。

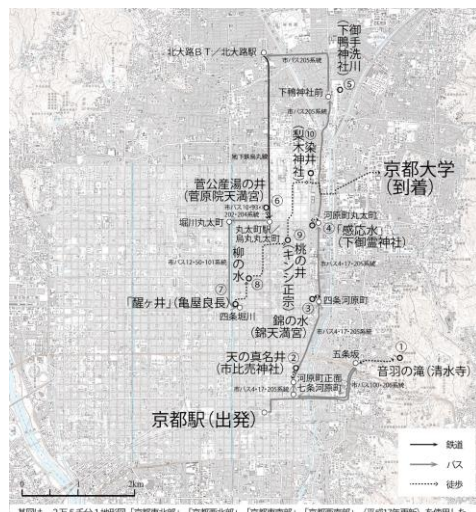
さらに、上記の研究と連動して考え始めたのが、地理学的研究の成果を活かして旅の創造ができないか、という実践的な探究である。物語の舞台となった場所の訪問も含め、絵図や古地図等も用いつつ旅をすることで、これまでとは視点の異なる旅をしてもらう意図があるが、大きな特徴として、パッケージされたツアーではなく、自らテーマに応じて旅のプランを創造することで、旅をより有意義なものにしてもらい、何回でも訪れることができるように促すものである(下段図)。これは社会的な貢献にも通じるため、研究を社会に還元する方法のひとつとして捉えられる。またこのことは地理学でさかんに行われているエクスカージョンと思想を共有するものであり、地理教育的な意義にも通じる。



第2図 「期待すべき内容」の舞台



第3図 「好ましくない内容」の舞台



京都の旅のプランの一例(安藤作成)
「京都・今も手に入れられる名水巡り」

基図は、2万5千分1地形図「京都東北部」「京都西北部」「京都東南部」「京都西南部」(平成17年更新)を使用した。